



今月の主な目次

- 放牧期間中の飼養管理技術
- 札幌編・「畑に貯金」ふん尿を宝の山に変え 肥沃な大地を作る
- 帯広編・儲けの秘けつポイント 給与飼料の改善とストレス解消
- 移行期の管理ポイント
- 寒高冷地型「沃野」のご紹介
- 乳牛用サプリメント

時の話題

エサの確保量を高めよう

待ち望んだ春がやって来ましたが

雪が多く、雪解けも遅く、気をもんでおられたことと思います。これからの作業が集中することになり、要領よく対処することが求められます。

雪解けが遅れ、暖候期の低温・低日照が重なり、飼料生産へのマイナスが加速されます。特に、飼料用トウモロコシの栽培では、播き遅れとならぬよう、播種機(播種板)の調整など、手際よく進めてほしいと思います。

牧草地の見回りは早めに

健康で冬越ししてきた草地には、雪解け後の草伸びが著しい「スプリングフラッシュ」というプレセントが与えられます。しかし、積雪量が多く、積雪期間が長いという条件は、「雪腐病」の多発条件とも一致し、牧草(地)が緑にならず、草伸びが鈍ければ、雪腐れを疑って見る事も必要です。草地を見回って、危ないと感じたら、農改センターの先生、或いは、当社営業所へご相談下さい。

『刈り間際になって、草地を見に行き、草がなく驚いた』というような話もあり、これでは、エサ生産面で随分損をすることになります。早めの発見が、早めの手だてを可能にします。面積が多い事による無駄を省こう

『草地は沢山あるので、草量はそこそこいいし、一番草しか利用しない部分もある』という、一見うらやましいような人もおります。でも、面積当たりの生産性は間違いなく低く、適切な肥培管理はおろか、草地更新もなされていない事が推量されます。牧草の栄養価も心配ですし、前述した「雪腐病」にも弱く、昨年のような「高温・集中豪雨」でも、大きな被害を受ける可能性が高まります。面積が多い事は、経営面では恵まれており、それを収益に結びつけることが大切です。

トウモロコシが作付けできる場合、耕起更新につながり堆肥の有効活用と不良植生の駆除にもつながり、ぜひ導入したいところです。

草地・酪農地帯は、概して、「寒凍害」が厳しく、エネルギーに満ち溢れた「若い力のある」草地を計画的に確保(準備)しておくことが重要です。もし、自まかない以上の生産があげれば、販売を検討することもできるでしょう。

自給率向上が国民的課題となっています

酪農・畜産に関わる立場では、「エサの確保量・自まかない度を高めよう」が重要なスローガンになり、その支援策も打ち出されてきました。

北海道は、こと、飼料生産面では、最も恵まれており、その強みを生かしきり、将来への基盤を確立する年にしたいものです。

なお、今回の有珠山噴火に伴い、大きな被害を受けられた西胆振地区の皆様は、心からお見舞申し上げます。(研究本部長 山下 太郎)